



令和7年度 市の決算と財政状況

決算は9月3日開会の市議会定例会で審議されています。

市ホームページID.1003561

令和7年度決算の情報は9月30日以降に公開予定です。



問い合わせ
財政課（市庁舎5階、☎65・4106）

一般会計の収支

※〈〉は前年比。
※歳出の各項目には関係する職員の給与費を含めています。

歳入

総額983億2109万円
〈32億5411万円↓〉

令和6年度と比較して、市税や道支出金などが増加した一方、諸収入などが減少しました。

- 市税：個人市民税や固定資産税が増加。
- 道支出金：中学校・義務教育学校のタブレット端末の更新に伴う公立学校情報機器整備事業補助金などが増加。
- 諸収入：十勝圏複合事務組合からのごみ処理施設整備などに伴う分配金などが減少。

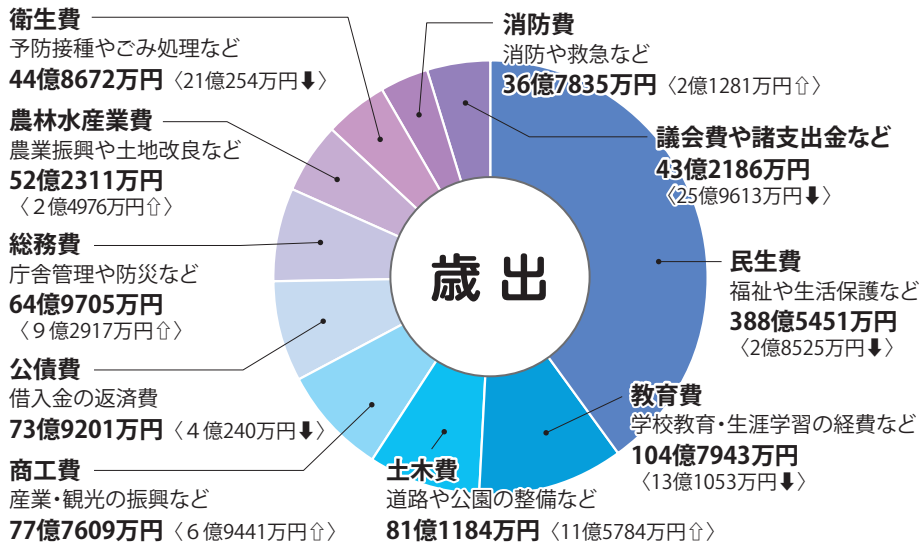
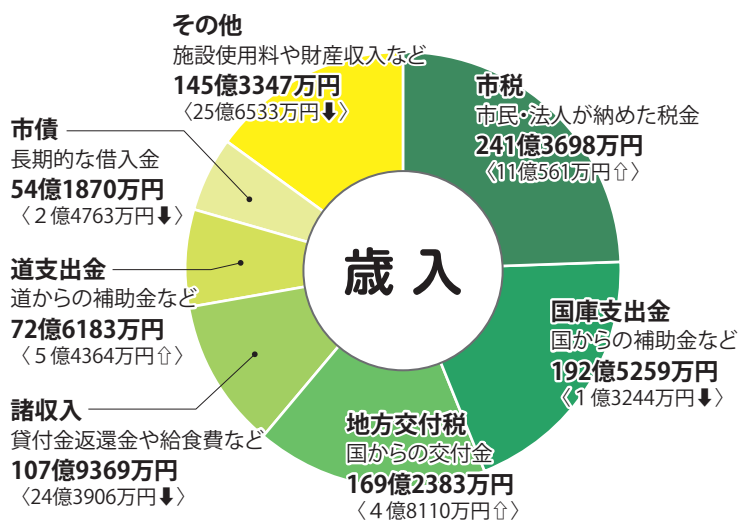
歳出

総額968億2097万円
〈34億5286万円↓〉

令和6年度と比較して、土木費や総務費などが増加した一方、衛生費や教育費などは減少しました。

- 土木費：大空団地4街区建替整備費やふじまるビル除却支援事業費などが増加。
- 総務費：防災無線整備費などが増加。
- 衛生費：廃棄物処理施設整備基金積立金が減少。
- 教育費：学校施設空調整備事業費などが減少。

【歳入と歳出の差引額】
令和7年度中に完了せず、令和8年度に繰り越した事業の財源1億6567万円もここに含まれています。
これを除く実質的な黒字額は、**13億3445万円**でした。



特別会計の収支

市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険会計や介護保険会計、ばんえい競馬会計など、全部で六つの特別会計があります。

特別会計は、利用者が負担する保険料や使用料などが主な財源で、収入と支出の関係性を明確にするため、一般会計と区分して経理を行っています。

特別会計の決算額は右の表のとおりです。



表 一般会計と特別会計の決算

会計区分		歳入	歳出	翌年度繰越事業財源	実質収支
一般会計		983億2109万円	968億2097万円	1億6567万円	13億3445万円
特別会計	国民健康保険会計	151億5548万円	151億938万円	—	4610万円
	後期高齢者医療会計	33億2473万円	31億9978万円	—	1億2495万円
	介護保険会計	177億657万円	171億3808万円	—	5億6849万円
	中島霊園事業会計	6313万円	6313万円	—	—
	ばんえい競馬会計	563億3692万円	559億3513万円	—	4億179万円
	駐車場事業会計	6738万円	6655万円	—	83万円
合計		1909億7530万円	1883億3302万円	1億6567万円	24億7661万円

これからの帯広市の財政

自治体の財政状況を示す指標として、四つの健全化判断比率があります。各自治体にはこれらの指標の公表が義務付けられています。

帯広市の財政は、いずれも早期健全化基準^{※2}を下回っており、健全な状況を維持しています。

しかし、高齢化の進行等に伴う社会保障費の増加や、公共施設の老朽化に加え、物価高騰への対応などの課題があり、厳しい財政状況が続くことが予想されます。

限られた財源の中で、事業の選択と集中を図りながら、将来を見据えた各種施策の推進に取り組み、まちづくりを進めていきます。



① 実質赤字比率

市の標準的な収入に対して、普通会計^{※1}の実質的な赤字額がどのくらいの割合を占めるかを示す指標。

令和7年度 黒字決算のため、算出なし

② 連結実質赤字比率

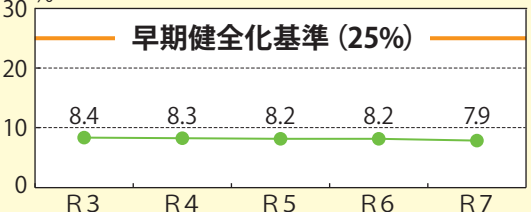
実質赤字比率に、その他の特別会計や企業会計の実質的な赤字額も含めて算出した指標。

令和7年度 黒字決算のため、算出なし

③ 実質公債費比率

一般会計などが負担する長期の借入金の返済やそれに準ずる支出が、市の標準的な収入に対して、どれくらいの割合を占めるかを示す指標。

実質公債費比率の推移

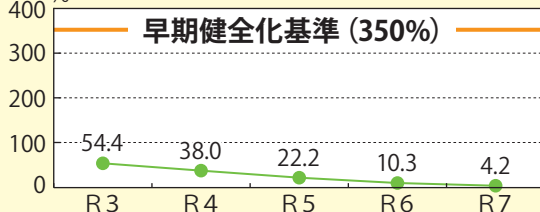


令和7年度 7.9% (健全な状況)

④ 将来負担比率

一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、市の標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを示す指標。

将来負担比率の推移



令和7年度 4.2% (健全な状況)

※1 普通会計…全国の自治体の財政状況を比較するための会計基準。帯広市では一般会計に中島霊園事業会計を加えたもの。

※2 早期健全化基準…財政破綻を防止するために設けられた危険水準を示す。四つの健全化判断比率のうち、一つでも基準を上回ると、財政の健全化に取り組む必要がある。